

BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN

法人設立にあたって

特定非営利活動法人 日本 BPW 連合会理事長 松原 敏美



2009.12.15
Vol.97

【特集】

特定非営利法人(NPO 法人)
としてスタート

CONTENTS

巻頭メッセージ
「法人設立にあたって」
理事長 松原 敏美

2009 年度第 1 回理事会報告

ブロック研究会報告
中部ブロック
関東・山梨ブロック
西日本ブロック
近畿ブロック
北海道・東北ブロック

トウニング報告
BPW 韓国と BPW 日本の間で
・長崎・仁川 ・東京・ソウル
第 14 回 APEC WLN 報告
JWLI について

日本 BPW 連合会ニュースレター

発行人：松原敏美 広報委員会編集

日本 BPW 連合会 事務局

〒151-0053

東京都渋谷区代々木 2-21-11

FKビル303

TEL.03-3348-7674

FAX.03-3348-7648

E-mail pub@bpw-japan.jp

ホームページ URL

http://www.bpw-japan.jp

平成 21 年 9 月 15 日、日本 BPW 連合会は、“特定非営利活動法人日本 BPW 連合会”として新たなスタートを切りました。私たちは、50 年の歴史の実績のうえに、より公益活動に力を入れ、かつ持続可能な団体となるために、法人化をする決断を致しました。

法人格を与えられたこの機会に、改めて、私たちの会が確固とした社会的存在であるとの自覚と、私たちの会が目指すものを次世代に引き継ぎ続ける意思とを、新たにしたいと思います。

特定非営利活動法人日本 BPW 連合会は、

- (1) 職業人としての会員自身を高める研鑽をすると共に、それを会員だけのものにせず、広く社会に情報として提供する活動をしします。
- (2) 能力と意欲があるのに、それを発揮する機会に恵まれないと嘆く女性がいらない社会を作る活動をしします。
- (3) 賃金格差や昇進格差に悩む女性がいらない社会を作る活動をしします。
- (4) 働き続けたいのに結婚、育児、介護その他の理由で仕事を諦めなければならない女性がいらない社会を作る活動をしします。
- (5) 若い女性たちの頑張る意欲を、世界的視野を含めてサポートする活動をしします。

私たちの活動は、目に見えた成果がすぐに現れる性格のものではありません。一步一步地道な努力の積み重ねが大切です。その意味でも、単位クラブを中心とした着実な活動が不可欠です。また、活動を息長く続けるために、クラブ会員の年齢構成をバランスよく保つよう留意することが重要です。

女性の輝く人生のために、ひいては活力に満ちた社会作りのために、奉仕の精神で貢献をいたしましょう。私たちの先輩が多くの犠牲を払いながら拓いて下さった道を思いながら、この会の設立当初の初心に立ち返りつつも時代の変化に即した効果的な方法で、それぞれに与えられた役割を果そうではありませんか。そして、次代を担う女性たちのために。

特定非営利活動法人日本 BPW 連合会第 1 回理事会

日時:2008 年 11 月 15 日(日)13:00 - 16:00

会場:銀座ルノアール八重洲北口店

議題

1. 議事録署名人の選任について
2. 規則について^{*1}
3. 設立認定のために行った定款等の変更について
4. 役員出張旅費について^{*2}
5. 内閣府との共催事業について^{*3}
6. APEC 女性リーダーネットワーク(WLN)について^{*4}
7. 第 45 回日本 BPW 連合会長崎大会について^{*5}
8. 報告事項
 - ・常任委員会活動について^{*6}
 - ・事務職員の臨時雇用について^{*7}
 - ・事務所使用について
9. その他

議事の概略

- *1 定款に記載できなかった具体的な運営に関するためのルールを明らかにした。特に、提案に大きな異論はなく、承認された。
- *2 かつての任意団体での会計運用細則では、役員の国内交通費は半額支給となっているものの、申請されないままであったが、活動の活性化のために、今後は(将来的には)支給の方向で、了承された。
- *3 「国・地方連携会議ネットワークによる男女共同参画・子育て支援推進事業」として、内閣府との共催で、下記の 3 会場でイベント開催となった。
- *4 2010 年日本で開催され、この運営に BPW も積極的に関与していくことを提言
- *5 次総会・長崎大会は 2010 年 6 月 12・13 日に開催。このうち、特にパートナーシップ・エバリュエーション賞の見直しについて意見交換したが、今後の方向性については、執行役員会に一任することに決定。
- *6 (抜粋) 企画委員会 5 ブロック研究会すべて有意義な内容であり、同時開催されたスピーチコンテストも素晴らしいヤングのスピーカーが発掘されていた。広報委員会 業務が遅れている部分については、役員が分担してサポートする。国際委員会 ポストンへの女性リーダー育成事業のカウンターパートとして 4 名のフェローを派遣 北京 + 15 関連会議(フィリピン)に参加 財務委員会 販売活動だけではなく、事業収入を獲得する方向で考えている。ヤング委員会 CSW インターン派遣者 3 名を選出。
- *7 これまでもそうであったが、現在、各執行役員が本業の傍ら、あるいは本業や家庭などを犠牲にして、連合会業務を行っており、事務職員を雇用して作業してもらうことを承認

2009 年度ブロック研究会報告

(開催順)

5 ブロック研究会の概略を紹介する。(詳細は会報で)

中部ブロック研究会(担当・BPW 岐阜クラブ)

2009 年 7 月 11 日(土)

於・ホテルグランヴェール岐山 カルチャーホール

参加者 190 名 (一般 136 名)

テーマ 変革への挑戦

～女性たちのリーダーシップ・アドボカシー・行動～

第1部 スピーチコンテスト

第2部 講演

「変革への挑戦」～挑戦する女性に期待する～

講師 小出 宣昭氏 中日新聞専務取締役

中日新聞東京本社代表

ジャーナリストは、時代をみるということが非常に重要という視点で、今という時代の特徴と、その時代の中での女性の位置づけを、たくみな話術で、歯切れ良く話された。

(概要)今、時代は近代科学文明。男とは、漢字にみるように“田んぼの力”であり、機械文明の中では、男の力を発揮できる場所が無くなってきている。平和が長く続いているということは、取りも直さず、戦争が無いということで、間違いなく男の出番が無く、いい格好ができないということがあり、まさに女が活躍できる絶好のチャンスとみるべきであろう。

また、少子化による社会の“質”の変化から生じてくる様々な事実をいかにとらえていくか…。‘長男化’現象にみられる温和な穏やかな時代が始まっている中で、女とは基本的に戦わない性を持ち合わせ、本能的に無階級生物であることを思う時、時代はまさに女性に味方していると思わざるをえない。ならば、女性にとって、これを利用しながら果敢に挑戦できるチャンスの到来ではないかと思う。

関東・山梨ブロック研究会(担当・東京クラブ)

2009 年 5 月 30 日(土)

於・市川房枝記念会館 講堂 参加 80 名

講演 「変革への挑戦-NGO の役割:アメリカの現状から女性たちがその中で果たす指導的役割について」

講師 厚子・東光・フィッシュ氏

(概要)「社会を動かすのは女性たちの力である。時代を変えていくには、市民社会の力が大きく、その市民社会を動かすのは女性たちである。いま、この変革の時期にあって、女性の指導力こそが求められている。」という信念で、日本人女性としてポストンを中心にアジアに目を向け、社会活動を展開し、現在、全ての時間とエネルギーを、全世界すべての女性たちの人権を守り、女性たちが社会を変革するための指導力と力を発揮するために力を注いでいる。

2007年から日本女性をボストンに招き、現地でのNGO活動体験、シモンズカレッジでの指導者講習参加、アメリカでの社会活動を体験学習し、帰国後に種々の活動の推進者となる人材育成に力を注いでいる状況を、熱く語っていただいた。

後半では、平松国際委員長がボストンでの体験をもとにフィッシュ氏と対談を行った。

西日本ブロック研究会 (担当・福岡クラブ)

2009年10月27日(土)

於・福岡市男女共同参画推進センター・アミカス

参加者 190名(一般参加も含む)

第1部スピーチコンテスト

第2部講演「いま改めて問う 働くことと 生きること」

講師 林 弘子氏(福岡大学教授・弁護士)

拡大する所得格差、ワーキング・プア(働く貧困層)の増加の背後にある派遣労働者および女性労働者の諸問題について、法律の変遷と共に、桐野夏生の小説「OUT」の話を変えながら、約2時間にわたり、詳細、かつ、わかりやすい講義に会場全体が熱心に聴き入り、終了後は活発な意見交換が行われた。

(講演概要)桐野氏は、戦後60年の働き方の大きな変化として、派遣労働者としての女性と低賃金労働者としての若者の出現を指摘。戦後、長く禁止されていた派遣労働は、1985年労働者派遣法によって合法化された間接的な雇用で、派遣労働者は、派遣先企業にとってはまさに物として処理されている。

この背景にある日本の曖昧な法制度(労基法4条、パート労働法、雇用機会均等法、国民年金の3号被保険者制度など)と国際社会基準(ILO100号条約、女性差別撤廃条約など)とのギャップや、労働者の実態を詳細に説明された。

近畿ブロック研究会 (担当・神戸クラブ)

2009年10月18日(日)

於・旧居留地十五番館 参加者40名(会員のみ)

テーマ：変革への挑戦

講演「アートで医療現場を癒しの空間に」

講師 森口ゆたか氏

プロジェクターで画像を映しながら、画家である森口氏がどういう経過でホスピタルアートにたどりついたかについて、さらに具体的に兵庫県や大阪でのホスピタルアート活動の取り組みが「暗いところこそ明るく」というやさしい心情をまじえてお話下さいました。

講演後のマンドリン演奏をはさんで、スピーチコンテストが行われた。

北海道・東北ブロック研究会 (担当・仙台クラブ)

2009年11月7日(土)

於・仙台弁護士会館 参加者50名

第1部スピーチコンテスト

第2部「違いを生かすコミュニケーション

～自分を拓き、自分を活かす～」

講師 BPW 仙台クラブ 布柴靖枝

これからの時代、女性も男性も、ひとりひとりがその能力を発揮して、いきいきと輝いて生きられる、そんな生き方を少しでも後押しできるように、コミュニケーションカアップにつながる全員参加型の研修会を開催した。

第3部「ワーク・ライフ・バランス

- その取組状況と展望について」

育児・介護休業法や次世代育成支援対策推進法など法制度の整備は進んできたものの、女性の就業継続をめぐる状況は依然厳しく、また長時間労働が常態化し、男性の育児休業取得率や家事・育児等に費やす時間は低水準にとどまっている。そのため、ファミリー・サポート・センターや保育所の増設など保育サービスを充実し、働きやすい環境の整備を促進するとともに、市町村・企業等と連携を図りながら、子育て家庭への支援に充実を目指している。企業の取組として、「人間力」を大切に「人」にこだわり、これからの時代を担う「人財」を育成する人間企業であり続ける為、ワーク・ライフ・バランスの実現や仕事と育児の両立支援などを通して社員の働きやすい環境づくりを推進しているなど現状が報告された。そして、「ワーク・ライフ・バランスの実現」のための取組について論議した。

Japanese Women Leadership Initiative (JWLI) 事業

担当役員 黒崎 伸子

2007年から始まったこのプロジェクトの目的は、ボストンのシモンズカレッジの教授たちの指導によって、新しい時代にふさわしい社会の指導者として活躍を目指す女性たちの支援です。アメリカ・ボストン在住の日系1世女性 Mrs. Atsuko Toko Fish が、母国日本の女性たちを支援する目的で立ち上げたものです。

現国際委員長・平松昌子氏(1期生)、前連合会副会長・塩崎智子氏(2期生)とBPWは当初から関与してきました。今年は、さらに優秀なフェローを派遣するという使命で日本BPW連合会が派遣者選考などを行いました。多くの応募の中から選ばれた4名は、現地で充実した研修を終えて帰国しました。

11月のFish夫人の来日に合わせて、フェローたちの同窓会が設立され、さらに、11月11日には、長崎で「女性の力 社会を動かす！」と題して講演会も開催しました。

今後、NGO活動を通して、日本で活躍する女性たちを輩出するために、この事業の充実に努めたいと思っています。来年春にはワークショップも開催予定です。

トウニング

BPW 仁川クラブ BPW 長崎クラブ

2009年6月27日(土)

前日より福岡経由でBPW 仁川クラブメンバー11名が長崎を訪問し、長崎県美術館(長崎ベイサイド)にて記念講演会を来賓・一般参加を交えて開催した。

李幸淑/LEE Haeng Sook 博士が『韓国女性の現状と挑戦』と題して講演し、韓国での変化、韓国女性のさまざまな分野での進出の状況、(故)前大統領による積極的女性登用政策などが紹介された。働く女性への子育て支援政策は遅れていることも報告され、質疑応答には講師以外に弁護士・議員・大学教授など各専門家が答えた。その後の懇親会には、田上富久長崎市長も参加し、大いに盛り上がった。



2009年9月11-12日

BPW 長崎クラブ代表4名が仁川を訪れ、鶴田会長が日本のWorking womenの現状と連合会と協働した新しい取り組み”Equal Pay Day“へのactionを紹介した。その後、MOUに両クラブ会長が署名した。

BPW ソウルクラブ-BPW 東京クラブ

BPWソウル-東京交流会&ヤングスピーチコンテスト

2009年10月31日(土) 於: 女性と仕事の未来館

2008年11月、韓国ソウルにおいて、姉妹クラブとしての締結をし、それぞれ首都をベースに活動するクラブとして、手を取りあって、働く女性の地位向上のために情報交換し、お互いのクラブの活性化と、国際団体としての連携を図ることを誓った。その第1回交流会を開催。

1部 ヤングスピーチコンテスト

2部 意見交換会「経済危機がもたらした女性労働の変化」問題提起者

・名取はにわ(東京クラブ,元男女共同参画局長)

・Ms.Kyung Won Sung(ソウルクラブ/韓国性教育所所長)

(概要) それぞれの国情の違いはあるものの、アメリカ発のリーマンショックは、多岐にわたり、女性の経済活動に影を落としていることが確認され、会場の参加者からも体験をとうした活発、かつ建設的な意見が出されました。



今回の交流会には、ソウルクラブのLee 会長以下12名が来日。松原連合会会長も駆けつけて歓迎と連帯の挨拶。世代を超え、和気あいの会場の雰囲気は、新しい隣国同士の交流から厳しい経済環境に新たな風を送り、男性ではできない突破口が見いだせた機会になったと感じた。

終了後の日韓交流懇親会では、東京クラブ 安倍会長の歓迎の挨拶、ソウルクラブ リー会長から挨拶に続いて、両クラブの参加者がそれぞれ自己紹介...賑やかにそして実りある有意義な一夜となった。

第14回 APEC・WLN(女性リーダー・ネットワーク)・シンガポール会合報告 国際委員長 平松昌子

この会合は、毎年APEC議長国で開催される。来々年2010年は日本での開催が決まっており、それに備える意味もあって、日本から政府関係者も含めて11名が参加した。会場はラッフルズ・ホテルに隣接している国際会議場があたり、会期は8月4日と5日の2日間。参加者は主催者によれば600人。テーマは「女性と持続可能な開発」となっていた。APECがアジア太平洋地域経済協力という組織で、女性たちの会合でも経済活動をどのように拡大していくかを中心に基調講演やパネルディスカッションなどが行われた。

会合ではいつも最後に提案書(Recommendation)を採択するのだが、この会合では「WLNとして、APECの指導者がジェンダーの平等と女性の経済的安定を推進するために最大の努力をするよう要請する」として女性に対する技術・能力育成を強化することなど10項目を盛り込んだ提案書を採択した。この提案書はこの後関係閣僚の会議に提出され、各国政府にその実施を求めていくことになる。

この会合が、女性の経済活動支援に関心を寄せてきた関係上、BPWがその運営に協力をしてきたという経緯もあり、来年を見据えて松原会長と平松が出席し、現地でBPWメンバーとの交流を深めた。



(写真: 左からヤンハイ・バク/アジア太平洋地域コーディネーター、エリザベス・ベンナム/BPWInt'l 会長、イレヌ・ポエニー/シンガポール会長、松原敏美/日本連合会会長)

編集後記 2009年春号NL/札幌大会特集の発行から半年が経過し、念願のNPO法人化も叶い、とにかく年内にあと1号発行すべし...と。短時間に原稿を作成し、ご協力下さった関係者の皆様および各クラブの方々に感謝致します!(黒崎/広報委員臨時代行)